

別紙 1－1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 石川 慶一郎

論 文 題 目 晩婚・非婚化社会における東京大都市圏の構造変化  
(Spatial structural change of Tokyo metropolitan area in the late marriage and forgoing marriage society)

### 論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教 授 高橋 誠

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教 授 横山 智

副 査 愛知大学文学部 教 授 岡本 耕平

副 査 明治大学文学部 教 授 川口 太郎

## 論文審査の結果の要旨

東京大都市圏を都心部と郊外部とに分け、それぞれの人口動態を検討すると、都心部の人口は、1960 年以降の郊外化に伴って減少を続けていたが、1990 年代後半以降増加に転じており、人口の都心回帰が指摘されている。こうした現象は、先進国の大都市において共通して指摘されており、その実態や要因を探ることは、大都市の地域構造や人口問題を考える上で重要な研究課題である。本論文は、主として東京都心部のマンション居住者の移動実態や住居選択行動を分析することによって、人口の都心回帰のプロセスとメカニズムを明らかにしたものである。

本論文は全 6 章から構成される。第 1 章では、先行研究をレビューした上で、戦後日本における国内人口移動や大都市圏の構造変化の動向を踏まえて本論文の目的と意義を提示している。第 2 章では、居住地移動研究の方法論を議論した上で、東京大都市圏における地域的人口動態の分析から、近年の都心回帰現象が、多産少死から少産少死への人口転換期に当たる 1950 年代以降に生まれた少産少死世代の晩婚・非婚化傾向と関連することを見出した。第 3 章では、国勢調査調査票情報の詳細な分析から、1990 年代後半以降の東京都心部における社会増加が賃貸マンション居住者、とりわけ未婚単独世帯の流入によってもたらされたことを確認する。次いで、東京都中央区における筆者の質問紙調査から、その集団が所得の高さを特徴とし、職住近接や住宅の設備・セキュリティなどを理由に、加齢とともに都心部へ内向的に移動する傾向を指摘した。第 4 章では、東京都心部の分譲マンションに居住する女性の未婚単独世帯に焦点を移し、筆者の別の質問紙調査によって居住者特性や住居選択行動を分析する。その結果、分譲マンションと賃貸マンションの居住者に類似性は見られるものの、前者の年齢や社会経済的地位が相対的に高く、それが、資産形成意欲を背景に、より広い間取りや快適な設備を得るために高額の物件を購入し、比較的近距離から住み替える傾向を指摘した。第 5 章では、都心周辺部のシェアハウスに居住する未婚女性に目を転じ、それが高い交通利便性や住居の快適性を重視し、将来的な所得上昇に伴って都心部へ移住する可能性を指摘した。第 6 章では、各章の知見をまとめ、人口の都心回帰と少産少死世代の居住地移動との関係を議論し、残された研究課題を提示している。

大都市における人口の郊外化は、結婚や出産など、世帯規模の拡大に伴う外向的な人口移動によってもたらされた。その後、晩婚や非婚化といったライフスタイルの多様化によって、高所得の未婚単独世帯が都心部に移動する傾向は、これまでも概略的には指摘されてきた。本論文は、筆者のオリジナルデータを詳細に分析することによって、このプロセスを実証的に明らかにするとともに、その要因を住居選択行動と関連づけながら説明した点において高く評価される。

よって、本論文提出者の石川慶一郎氏は、博士（地理学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。